

秋田県文化財調査報告書第357集

越 雄 遺 跡

—日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XVI—

2 0 0 3 ・ 3

秋 田 県 教 育 委 員 会

シンボルマークは、北秋田郡森吉町白坂（しろざか）遺跡
出土の「岩俣」です。

縄文時代晩期初頭、1992年発見、高さ7cm、凝灰岩。

こし お
越 雄 遺 跡

—日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XVI—

2003・3

秋 田 県 教 育 委 員 会



越雄遺跡(上空から)



S I 15竪穴住居跡



S K02出土壺形土器



S K01出土鉢形土器

序

本県には、これまでに発見された約4600箇所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、日本海沿岸東北自動車道をはじめとする高速交通体系の整備は、ゆとりと活力に満ちた新しいふるさと秋田の創造をめざす開発事業の根幹をなすものであります。本教育委員会ではこれら地域開発との調和をはかりながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、日本海沿岸東北自動車道建設に先立って、平成12年度に井川町で実施した越雄遺跡の調査成果をまとめたものであります。調査では弥生時代の竪穴住居跡や貴重な遺物等が発見され、当時の人々の生活の一端が明らかになりました。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました日本道路公団東北支社秋田工事事務所、井川町、井川町教育委員会など関係各位に対し厚くお礼申し上げます。

平成15年3月

秋田県教育委員会

教育長 小野寺清

例 言

1. 本書は、日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財調査報告書の16冊目である。
2. 本書は、平成12年度(2000年度)に発掘調査した、秋田県南秋田郡井川町黒坪字越雄に所在する越雄遺跡の調査成果を収めたものである。
3. 本書に使用した図は、日本道路公団東北支社秋田工事事務所提供の工事路線計画図1,000分の1『日本海沿岸東北自動車道(井川北工事) No.4』および建設省国土地理院発行の50,000分の1地形図『五城目』と25,000分の1地形図『五城目』である。
4. 遺跡基本層序と遺構土層図中の土色表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版 標準土色帖』1999年版に拠った。
5. 第5章の自然科学分析は下記の機関に依頼した。
放射性炭素年代測定、土壌のリン・カルシウム分析・・・・・・・・・・バリノ・サーヴェイ株式会社
6. 本報告書を作成するにあたり、以下の方々からご指導・ご助言を賜った。記して感謝申し上げます。(五十音順)
大場唯弥 小林圭一 小武海松四郎 手塚均
7. 本書の執筆は、村上義直、嶋田仁が行った。第1章1節を嶋田、第1章2節、第2章を嶋田・村上、それ以外は村上が担当した。

凡 例

1. 遺構番号は、その種類ごとに略記号を付し、検出順に連番としたが、柱穴様ビットだけは検出順に101以降の番号を付した。これらの中には精査と整理作業の過程で欠番としたものもある。遺構の種類に用いた略記号は下記の通りである。
S I 竪穴住居跡 S K 土 坑 S D 溝跡 S R 土器埋設遺構
S N 焼土遺構 S K P 柱穴様ビット
2. 土層番号に用いた数字は、ローマ数字を遺跡基本層位に算用数字を遺構土層に使用した。
3. 遺物の縮尺は、土器1/3、石器1/2とした。

目次

巻頭図版	
序	
例言	ii
凡例	ii
目次	iii
挿図目次	iv
表目次	v
図版目次	v
第1章 はじめに	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査要項	1
第2章 遺跡の環境	5
第1節 遺跡の位置と立地	5
第2節 歴史的環境	8
第3章 発掘調査の概要	13
第1節 遺跡の概観	13
第2節 調査の方法	13
第3節 調査の経過	16
第4章 調査の記録	18
第1節 基本層序	18
第2節 検出遺構と出土遺物	18
1 検出遺構の概要	18
2 縄文時代・弥生時代の遺構と遺物	18
(1) 竪穴住居跡	21
(2) 土坑	21
(3) 土器埋設遺構	31
(4) 焼土遺構	31
(5) 溝状遺構	32
3 遺構外出土遺物	
(1) 縄文時代・弥生時代の土器	38
(2) 縄文時代・弥生時代の石器	60
4 平安時代の遺構と遺物	79
(1) 竪穴住居跡	79
(2) 土坑	80
(3) 焼土遺構	83
(4) 溝状遺構	83
5 平安時代の遺構外出土遺物	84
6 時期不明の遺構	84
(1) 土坑	84
(2) 溝状遺構	88
7 柱穴様ビット	91
第5章 自然科学分析	98
第1節 越雄遺跡出土の放射性炭素年代測定および樹種同定	98
第2節 越雄遺跡検出遺構のリンカルシウム分析	102
第6章 まとめ	105
報告書抄録	

挿 図 目 次

<p>第1図 日本海沿岸東北自動車道と関連遺跡・・・ 2</p> <p>第2図 越雄遺跡調査範囲図・・・・・・・・・・ 3</p> <p>第3図 越雄遺跡の位置・・・・・・・・・・ 5</p> <p>第4図 遺跡周辺の地形分類図・・・・・・・・・・ 6</p> <p>第5図 遺跡周辺の表層地質図・・・・・・・・・・ 7</p> <p>第6図 周辺の遺跡位置図・・・・・・・・・・ 9</p> <p>第7図 調査対称範囲図・・・・・・・・・・ 14</p> <p>第8図 グリッド配置図・・・・・・・・・・ 15</p> <p>第9図 55ライン基本土層図・・・・・・・・・・ 19</p> <p>第10図 遺構配置図・・・・・・・・・・ 20</p> <p>第11図 S I 15竪穴住居跡・・・・・・・・・・ 22</p> <p>第12図 S K 01土坑・・・・・・・・・・ 25</p> <p>第13図 S K 02・11土坑・・・・・・・・・・ 26</p> <p>第14図 S K 30・31・41～43・290・291・353土坑、 S R 13・14土器埋設遺構、 S N 03焼土遺構、S D 18溝跡・・・・・・・・ 27</p> <p>第15図 S D 09・10・28溝跡・・・・・・・・・・ 29</p> <p>第16図 S D 19～23溝跡・・・・・・・・・・ 33</p> <p>第17図 S D 19・22溝跡・・・・・・・・・・ 35</p> <p>第18図 S D 20～22溝跡・・・・・・・・・・ 36</p> <p>第19図 S D 22・23溝跡・・・・・・・・・・ 37</p> <p>第20図 S K 01出土土器・・・・・・・・・・ 41</p> <p>第21図 S K 01出土土器・・・・・・・・・・ 42</p> <p>第22図 S K 01出土土器・・・・・・・・・・ 43</p> <p>第23図 S K 01出土土器・・・・・・・・・・ 44</p> <p>第24図 S K 02出土土器・・・・・・・・・・ 45</p> <p>第25図 S K 02・11・31出土土器、S K 30出土土器 ・・・・・・・・・・ 46</p> <p>第26図 S K 290・291・353、S R 13・14、 S D 09・19・20・23出土土器・・・・・・・・ 47</p> <p>第27図 遺構外出土土器（1）・・・・・・・・・・ 48</p> <p>第28図 遺構外出土土器（2）・・・・・・・・・・ 49</p> <p>第29図 遺構外出土土器（3）・・・・・・・・・・ 50</p> <p>第30図 遺構外出土土器（4）・・・・・・・・・・ 51</p>	<p>第31図 遺構外出土土器（5）・・・・・・・・・・ 52</p> <p>第32図 遺構外出土土器（6）・・・・・・・・・・ 53</p> <p>第33図 遺構外出土土器（1）・・・・・・・・・・ 62</p> <p>第34図 遺構外出土土器（2）・・・・・・・・・・ 63</p> <p>第35図 遺構外出土土器（3）・・・・・・・・・・ 64</p> <p>第36図 遺構外出土土器（4）・・・・・・・・・・ 65</p> <p>第37図 遺構外出土土器（5）・・・・・・・・・・ 66</p> <p>第38図 遺構外出土土器（6）・・・・・・・・・・ 67</p> <p>第39図 遺構外出土土器（7）・・・・・・・・・・ 68</p> <p>第40図 遺構外出土土器（8）・・・・・・・・・・ 69</p> <p>第41図 遺構外出土土器（9）・・・・・・・・・・ 70</p> <p>第42図 遺構外出土土器（10）・・・・・・・・・・ 71</p> <p>第43図 遺構外出土土器（11）・・・・・・・・・・ 72</p> <p>第44図 遺構外出土土器（12）・・・・・・・・・・ 73</p> <p>第45図 遺構外出土土器（13）・・・・・・・・・・ 74</p> <p>第46図 S I 06竪穴住居跡・・・・・・・・・・ 79</p> <p>第47図 S I 08竪穴住居跡・・・・・・・・・・ 81</p> <p>第48図 S K 25・26土坑、S N 05焼土遺構、 S D 35・38溝跡・・・・・・・・・・ 82</p> <p>第49図 S I 06、S D 10・22・35遺構外出土遺物 ・・・・・・・・・・ 85</p> <p>第50図 遺構外出土遺物・・・・・・・・・・ 86</p> <p>第51図 S K 12・17・24・27・29・32～34・39土坑 ・・・・・・・・・・ 90</p> <p>第52図 S K 40・177土坑、S D 36・37溝跡・・・・ 91</p> <p>第53図 柱穴様ビット付図区割・・・・・・・・・・ 92</p>
---	--

表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧(1)……………	10
第2表	周辺の遺跡一覧(2)……………	11
第3表	土器観察表(1)……………	54
第4表	土器観察表(2)……………	55
第5表	土器観察表(3)……………	56
第6表	土器観察表(4)……………	57
第7表	土器観察表(5)……………	58
第8表	土器観察表(6)……………	59
第9表	石器計測表(1)……………	75
第10表	石器計測表(2)……………	76
第11表	石器計測表(3)……………	77
第12表	石器計測表(4)……………	78
第13表	柱穴様ビット計測表(1)……………	93
第14表	柱穴様ビット計測表(2)……………	94
第15表	柱穴様ビット計測表(3)……………	95
第16表	柱穴様ビット計測表(4)……………	96
第17表	柱穴様ビット計測表(5)……………	97
第18表	放射性炭素年代測定および樹種同定結果……………	99
第19表	各土坑のリン・カルシウム分析結果……………	103

図 版 目 次

<p>巻頭図版-1 越雄遺跡(上空から)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2 S I 15 整穴住居跡 - 3 S K 02 出土壺形土器 - 4 S K 01 出土鉢形土器 <p>図版 1-1 越雄遺跡遠景(北→)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2 越雄遺跡遠景(南→) <p>図版 2-1 越雄遺跡調査区(南西→)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2 越雄遺跡調査区(北→) <p>図版 3-1 S I 15 完掘(南西→)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2 S I 15 完掘(南西→) - 3 S I 15 内地床炉(南西→) - 4 S I 15 内地床炉断面(北→) - 5 S I 15 完掘(南西→) <p>図版 4-1 S K 01 確認(北東→)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2 S K 01 遺物出土状況(南→) - 3 S K 01 遺物出土状況(北東→) - 4 S K 01 遺物出土状況(南→) - 5 S K 01 完掘(南西→) <p>図版 5-1 S K 02 遺構確認(北東→)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2 S K 02 完掘(北西→) <p>図版 6-1 S K 11 断面(南西→)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2 S K 11 完掘(北西→) - 3 S K 30 完掘(東→) - 4 S K 31・41・42・43 完掘(南東→) - 5 S K 290・291 遺物出土状況(北西→) <p>図版 7-1 S K 290・291 遺物出土状況(北西→)</p>	<p>図版 7-2 S K 290・291・353 完掘状態(北東→)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 3 S R 13 確認(西→) - 4 S R 13 完掘(南→) - 5 S R 14 確認(南西→) - 6 S R 14 完掘(南西→) - 7 S N 03 確認(北西→) - 8 S N 03 断面(西→) <p>図版 8-1 S D 18 確認(西→)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2 S D 18 完掘(南西→) - 3 S D 09 確認(北西→) - 4 S D 09 断面(南→) - 5 S D 09 完掘(南→) <p>図版 9-1 S D 09 断面(南→)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2 S D 09 完掘(北→) - 3 S D 19~23 確認(北東→) - 4 S D 19 完掘(南→) - 5 S D 19・22 断面(南→) <p>図版 10-1 S D 23 遺物出土状況(北東→)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2 S D 23 遺物出土状況(北西→) - 3 S D 23 断面(南東→) - 4 S D 23 断面(南→) - 5 S I 06・08 完掘(上が東、下が西) <p>図版 11-1 S I 06 断面(南→)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2 S I 06 掘り込み部分断面(南→) - 3 S I 06 掘り込み部分遺物出土状況(西→) - 4 S I 06 掘り込み部分完掘(南→)
--	--

- 図版11- 5 S K P 断面 (南東→)
 - 6 S I 08掘り込み部分確認 (北西→)
 - 7 S I 08掘り込み部分断面 (西→)
 - 8 S I 08掘り込み部分完掘 (南西→)
- 図版12- 1 S K 25・26断面 (北西→)
 - 2 S N 05確認 (東→)
 - 3 S N 05断面 (南西→)
 - 4 S N 05完掘 (西→)
 - 5 S D 09・10確認 (南→)
 - 6 S D 10末端部確認 (南→)
 - 7 S D 22断面 (南東→)
 - 8 S D 35確認 (南西→)
- 図版13- 1 S D 35遺物出土状態 (南東→)
 - 2 S D 35断面 (南西→)
 - 3 S D 38断面 (南東→)
 - 4 S D 38完掘 (南東→)
 - 5 S K 12確認 (南→)
 - 6 S K 12完掘 (南→)
 - 7 S K 17断面 (南→)
 - 8 S K 17完掘 (南→)
- 図版14- 1 S K 24断面 (南→)
 - 2 S K 24完掘 (南→)
 - 3 S K 27断面 (南東→)
 - 4 S K 27完掘 (南東→)
 - 5 S K 29断面 (南→)
 - 6 S K 29完掘 (南→)
 - 7 S K 32断面 (南東→)
 - 8 S K 32完掘 (南→)
- 図版15- 1 S K 33断面 (南→)
 - 2 S K 34断面 (南→)
 - 3 S K 33・34精査 (西→)
 - 4 S K 33・34完掘 (西→)
 - 5 S K 39断面 (北西→)
 - 6 S K 39完掘 (北→)
 - 7 S K 40断面 (南西→)
 - 8 S K 40完掘 (東→)
- 図版16- 1 S K 177断面 (南→)
 - 2 S K 177完掘 (北→)
 - 3 S D 20・22完掘 (南→)
 - 4 S D 21完掘 (南西→)
 - 5 S D 28確認 (南→)
 - 6 S D 28一部完掘 (南→)
 - 7 S D 28断面 (南→)
 - 8 S D 36・37完掘 (東→)
- 図版17- 1 S D 36断面 (東→)
 - 2 S D 37断面 (東→)
 - 3 55ライン断面 (南→)
 - 4 調査状況 (南西→)
- 図版18 S K 01出土土器 (1)
 図版19- 1 S K 01出土土器 (2)
 - 2 S K 02出土土器 (1)
 図版20- 1 S K 290・291出土土器
 - 2 S R 13出土土器
 - 3 S R 14出土土器
 - 4 L O 53出土土器
- 図版21- 1 L O 57出土土器
 - 2 L M 63出土土器
 - 3 L S 45出土土器
 - 4 遺構外出土蓋形土器
 - 5 S I 06出土須恵器
 - 6 遺構外出土須恵器
- 図版22 S K 01出土土器 (3)
 図版23- 1 S K 01出土土器 (4)
 - 2 S K 02出土土器 (2)
 図版24- 1 S K 11・31出土遺物
 - 2 S D 09・19・23出土土器
- 図版25 遺構外出土土器 (1)
 図版26- 1 遺構外出土土器 (2)
 - 2 遺構外出土土器 (2)
 - 3 縦位の刷毛目
 - 4 頸部の横ナデ
 - 5 列点文
 - 6 列点文
 - 7 内面の刷毛目
 - 8 内面の磨き
- 図版27- 1 遺構外出土土器 (1)
 - 2 遺構外出土土器 (2)
 図版28- 1 遺構外出土土器 (3)
 - 2 遺構外出土土器 (4)
 図版29- 1 S I 06、S D 10・20・35出土遺物
 - 2 平安時代の遺構外出土遺物
- 図版30 炭化材 (1)
 図版31 炭化材 (2)
 図版32 炭化材 (3)

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経過

日本海沿岸東北自動車道は、新潟市から青森市にかけての日本海沿岸や県内の高速交通体系の改善など、地域の生産活動と県民生活に必要な情報や資源の交流を促進することを目的として計画された高速道路である。このうち、秋田県内では、国土交通省によって一部事業化されている象潟仁賀保道路及び仁賀保本荘道路、秋田外環状道路、琴丘能代道路、大館西道路と連結して、小坂JCTで東北自動車道に接続する。1997(平成9)年2月に新潟市～青森市までが日本海沿岸東北自動車道として路線指定され、このうち秋田南1・Cから昭和男鹿半島1・Cまでの25.7kmについては、同年11月13日に開通している。越雄遺跡に係る昭和～琴丘間の20.7kmについては、1991(平成3)年12月に整備計画区間に、1993(平成5)年12月には実施計画認可を経て1994(平成6)年11月に路線が発表された。

これを受けて秋田県教育委員会は、日本海沿岸東北自動車道昭和琴丘線建設事業に係る路線上の埋蔵文化財確認のため、平成8年9月18・19日及び12月17～19日に分布調査を実施し、周知の遺跡3カ所、新たに発見した遺跡16ヶ所の計19遺跡が工事区域内に存在することが明らかとなった。

越雄遺跡は分布調査において新発見の遺跡であり、工事区域内の8,500㎡を対象にした確認調査を平成10年6月8日～6月23日の期間で実施した。その結果、弥生時代前期の遺跡であることが判明し、工事区域内の遺跡面積は4,300㎡と確定した。

発掘調査は確認調査から2年後の平成12年に行われることになった。越雄遺跡の調査が行われた平成12年には、昭和～琴丘間において同事業に伴い、堂の下遺跡(琴丘町)、小林遺跡(琴丘町)、西野遺跡(昭和町)、後山遺跡(昭和町)の計5遺跡の調査が行われ、同区間における発掘調査を全て終了した。

第2節 調査要項

遺跡名	越雄遺跡
遺跡略号	4KO
所在地	秋田県南秋田郡井川町黒坪字越雄16-1外
調査期間	平成12年5月15日～9月14日
事業名	日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る発掘調査
調査対象面積	4,300㎡
調査面積	4,300㎡
調査主体者	秋田県教育委員会
調査担当	村上 義直(秋田県埋蔵文化財センター文化財主事) 嶋田 仁(秋田県埋蔵文化財センター文化財主事) 永澤 智子(秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員) 鎌田久美子(秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員)

第1章 はじめに

調査総務担当	菅原 晃(秋田県埋蔵文化財センター主査)
	佐々木敬隆(秋田県埋蔵文化財センター主事)
	八文字 隆(秋田県埋蔵文化財センター主事)
	高橋 修(秋田県埋蔵文化財センター総務課主任)
	土橋 謙一(秋田県埋蔵文化財センター総務課主事)
	成田 誠(秋田県埋蔵文化財センター総務課主事)
調査協力機関	日本道路公団秋田工事事務所
	井川町
	井川町教育委員会

第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置と立地

越雄遺跡の所在する南秋田郡井川町は、八郎潟残存湖東岸南部に位置する。町は東西に細長く、東は出羽山地に属する山間部、西は平野部となっている。町名となっている河川「井川」は、山間部の俎山(721.8m)の北斜面、務沢に水源を發し、八郎潟残存湖に向かって西流する全長約20kmの小河川である。上流・中流・下流部ではそれぞれ田代川、菅生川、赤沢川が合流し、坂本・北川尻・浜井川・今戸などの諸地域を通り八郎潟残存湖に達する。井川は周辺の馬場目川、妹川、豊川、馬路川などととも八郎潟東部の沖積地を形成している。

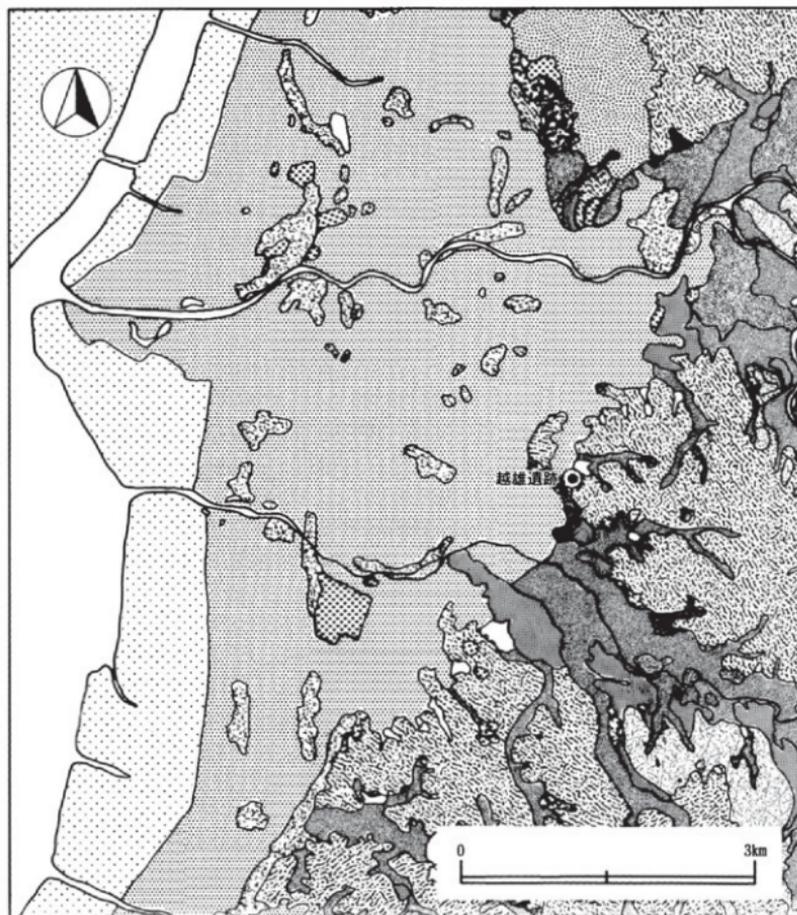
遺跡は、JR奥羽本線井川さくら駅から東北東に約3km、国道285号線・7号線の分岐点より北東に約3kmの丘陵地に立地する。「井川」からは北に0.8km程の距離にある。

「土地分類基本調査 五城目」の地形区分図によると遺跡周辺の地形は、東部から八郎潟残存湖に向けて山地、丘陵地、低地に分かれ、丘陵地と低地の境界線に沿って段丘が存在する。遺跡は東部の俎山山地(大起伏山地)から北西方向に伸びる大麦丘陵(起伏量100m未満)の西端に位置し、西方には湖東沖積低地が広がっている。

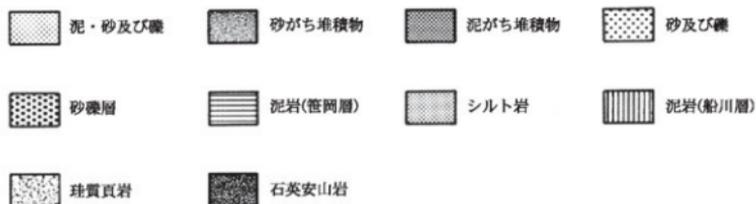
表層地質図によると遺跡は、丘陵地西端の中間・黒坪・小泉・飛塚・大野地に分布する第四紀更新世の潟西層(砂礫層)上に立地している。潟西層は、中粒～細粒砂および礫を主体とする湖成堆積と考えられる層で、植物化石を含む。遺跡の西側の沖積低地は第四紀完新世の堆積層で軟弱な粘土、シルトなどを主体とする泥がちの堆積層で構成される。



第3図 越雄遺跡の位置



第4図 遺跡周辺の地形分類図



第5図 遺跡周辺の表層地質図

第2節 歴史的環境

八郎湖南東部の遺跡分布の特徴として板碑・五輪塔など中世の記念物が多数存在することがあげられる。これについては修験との結びつきが指摘されており、修験者が伝えたと言われる番衆が残っている地域もある。また、八郎湖に注ぐ井川、馬場目川、妹川等の流域には中世の遺跡、城館跡も多数確認されている。この中には安東氏と繋がりがあるものも少なくない。このように当地では中世の記念物(遺跡)の存在が目立つわけであるが、縄文時代・弥生時代・古代の遺跡も多数確認されている。ここで井川町とその周辺における主な遺跡を概観してみることにする。なお、遺跡名に付されている番号は第1・2表に対応する。

井川町の遺跡としては、本遺跡の南3kmの台地に立地する大野地遺跡、北西0.4kmの新聞山に位置する新聞遺跡、西方3kmの低地に立地する洲崎遺跡などが著名である。大野地遺跡は縄文時代前期の遺跡で円筒下層式土器が多数検出された大規模な捨て場の跡が見つまっている。出土した土器には円筒式土器と大木式土器の折衷様式とも受け取れる土器が含まれている。新聞遺跡は弥生時代の遺跡で初痕のある弥生時代の土器が出土している。洲崎遺跡は堀・溝・道路等を伴う中世の大規模な集落跡で100基を超える掘立柱建物跡や300基を超える井戸跡が見つかり、多数の木製品と伴に人魚供養札も出土している。この他にも坂本城や館岡城といった中世の城館跡も存在している。

井川町周辺では本遺跡から近い所に五城目町の岩野山古墳群、中山遺跡、石崎遺跡、中谷地遺跡、北遺跡などがある。中山遺跡は縄文時代後期から晩期にかけての遺跡で低地部分の泥炭層からは弓や木胎漆器などの漆工芸品や漆液を濾す際に使用したと考えられる編布が出土している。岩野山古墳群は奈良時代から平安時代にかけての墓域で18基の土坑墓が見つまっている。石崎遺跡は馬場目川下流の左岸に立地する古代の城柵官衙遺跡で一辺400mの方形プランをもつ遺跡の広がりが推定されている。中谷地遺跡、北遺跡は古代の集落跡である。中谷地遺跡では墨書土器や祭祀関連の遺物を含む木製品が大量に出土し、北遺跡では13基の井戸跡や3基の便所跡と考えられる遺構が見つまっている。

井川町の南に位置する飯田川町では平成11年度に古開Ⅱ遺跡や鹿来館跡の発掘調査が行われ、古開Ⅱ遺跡からは縄文時代の土坑や平安時代の竪穴住居跡などが、鹿来館跡からは館に伴う空堀、帯曲輪や平安時代の竪穴住居跡などが見つまっている。

参考文献

- 奈良修介・豊島昂 『秋田県の考古学』 吉川弘文館 1967(昭和42)年
秋田県『土地分類基本調査 五城目』 1973(昭和48)年
五城目町教育委員会 『石崎遺跡発掘調査報告』 1975(昭和50)年
八郎岡町 『八郎岡町史』 1977(昭和52)年
小武海松四郎 『粉痕をともなう秋田県南秋田郡井川町新聞遺跡遺物について』 1977(昭和52)年
秋田県文化財保護協会 『秋田県の中世城館』 1981(昭和56)年



第6図 周辺の遺跡位置図

第1表 周辺の遺跡一覧(1)

地図番号	遺跡名	所在地	種別	遺物・遺物
1	実相院板碑	井川町今戸寺内	板碑	角閃安山岩(自然石)
2	熊野神社板碑	井川町今戸寺内	板碑	角閃安山岩(自然石)
3	寺ノ内	井川町今戸寺内	遺物包含地	銭貨(開元通寶・治平通寶他)
4	賢蔵院板碑	井川町今戸字家ノ後	板碑	角閃安山岩(自然石)
5	小今戸板碑Ⅰ	井川町今戸字小今戸	板碑	角閃安山岩(自然石)
6	小今戸板碑Ⅱ	井川町今戸字力千田	板碑	角閃安山岩(自然石)
7	小今戸板碑Ⅲ	井川町今戸字小今戸	板碑	角閃安山岩(自然石)
8	洲崎	井川町浜井川字洲崎	集落跡	井戸跡、溝跡、道路跡、陶磁器、木製品等
9	新屋敷板碑	井川町浜井川字苗代堰	板碑	角閃安山岩(自然石)
10	新屋敷五輪塔	井川町浜井川字苗代堰	五輪塔	火山岩、五輪塔(地・水・火輪)
11	資料館前板碑	井川町北川尻字海老沢樋ノ口	板碑	角閃安山岩(自然石)
12	田中神明社板碑	井川町浜井川字家の東	板碑	角閃安山岩(自然石)
13	羽立伊勢堂板碑	井川町浜井川字家の東	板碑	輝石安山岩(加工岩)
14	下村	井川町北川尻字下村	遺物包含地	墨書須恵器
15	飛塚Ⅰ	井川町坂本字飛塚	遺物包含地	墨書土師器、須恵器
16	飛塚Ⅱ	井川町黒坪字飛塚	窯跡	鉢、壺破片、擂鉢破片等
17	坂本湊城	井川町坂本字山崎	館跡	空堀、土塁、井戸跡、須恵器、刀子、黄瀬戸等
18	縄手内	井川町八田大倉字縄手内	遺物包含地	土器片
19	新聞A	井川町黒坪字新聞	遺物包含地	縄文土器(晩期)、弥生土器、石鏃、石斧、石鏢
20	新聞B	井川町黒坪字新聞	遺物包含地	縄文土器(晩期)、弥生土器、石鏃
21	越雄	井川町黒坪字越雄	集落跡	土坑墓、弥生土器、石器
22	小泉	井川町黒坪字越雄	遺物包含地	土師器、須恵器、丸玉
23	乘江院宝篋印塔	井川町黒坪字小泉	宝篋印塔	基礎、塔身、笠
24	八幡神社板碑	井川町八田大倉字八幡	板碑	角閃安山岩(自然石)
25	比丘尼館Ⅰ	井川町赤沢字糺田	館跡	
26	比丘尼館Ⅱ	井川町宇治木字宇治木沢	館跡	
27	館岡館	井川町藪田字羽根田	館跡	腰郭、帯郭、空堀
28	羽根田	井川町藪田字羽根田	火葬墓	土師器壺(骨壺)、人骨
29	築館	井川町九田大倉字南台	館跡	空堀、土塁
30	野畑	井川町藪田字野田	遺物包含地	縄文土器、石鏃、石匙、石槍、石斧、石鏢等
31	南台	井川町八田大倉字南台	遺物包含地	骨甕器(土師器1個・須恵器1個)
32	大野地	井川町坂本字大野地	遺物包含地	土坑、縄文土器(前期)、石器、貝殻、獣骨等
33	味噌野	井川町寺沢字味噌野	寺院跡	
34	綱木沢	井川町寺沢字綱木沢	遺物包含地	縄文土器、石鏃、石匙、石鏢等
35	板碑	五城目町大川字東屋布	板碑	種字
36	大川城	五城目町大川字東屋布	館跡	板碑
37	石崎	五城目町大川下樋口字道ノ下	城柵跡	欄列、柱脚、陶硯、木製品等
38	山際道ノ下	五城目町榎横町字山際道ノ下	遺物包含地	石甕、石鏢、土師器、珠洲系陶器、陶磁器等
39	三石阿弥陀三尊塔 東谷寺跡	五城目町小池字森山下	信仰碑跡	種字、元文2年6月
40	板碑	五城目町小池字森山下	板碑	石造物
41	岡本城	五城目町小池字森山下	館跡	種字
42	板碑	五城目町小池字森山下	板碑	種字
43	岡本	五城目町小池字森山下	遺物包含地	竪穴住居跡、縄文土器(後・晩期)、土偶、石器
44	北	五城目町野田字北	集落跡	井戸跡、便所跡、陶磁器、刀子、木製品等
45	下台	五城目町岡本字下台	遺物包含地	縄文土器(後・晩期)
46	細越	五城目町字七倉	遺物包含地	縄文土器(晩期)
47	細越館	五城目町小池字岡本下台	館跡	帯郭
48	神明前	五城目町字神明前	遺物包含地	縄文土器(中・後期)
49	岩野山古墳群	五城目町樋口字樽沢	古墳	太刀、勾玉、石帯、鉄鏃、土師器、須恵器等
50	砂沢城	五城目町字羽黒前	館跡	
51	砂沢窯跡	五城目町字羽黒前	窯跡	登窯、陶器片
52	広ヶ野	五城目町高崎字広ヶ野	遺物包含地	縄文土器(中・後・晩期)、石斧、石棒、土塁
53	雀館古代井戸	五城目町上樋口字堂社	井戸跡	須恵器、土師器、黒陶、矢板
54	雀館	五城目町高崎字八田	館跡	青磁、黄瀬戸、礎石
55	中山	五城目町高崎字中泉田	遺物包含地	土坑墓、縄文土器(後・晩期)、漆製品等

第2表 周辺の遺跡一覧(2)

地図番号	遺跡名	所在地	種別	遺物・遺物
55	中谷地	五城目町大川字谷地中中谷地	集落跡	掘立柱建物跡、板材列、土師器、須恵器等
56	沢田真和2年碑	八郎潟町真坂字沢田	板碑	
	沢田碑Ⅰ	八郎潟町真坂字沢田	板碑	
	沢田碑Ⅱ	八郎潟町真坂字沢田	板碑	
	沢田碑Ⅲ	八郎潟町真坂字沢田	板碑	
57	沢田Ⅲ	八郎潟町真坂字沢田	遺物包含地	石皿、石棒、フレーク
58	鳥屋崎	八郎潟町浦大町字鳥屋崎	遺物包含地	フレーク
59	寒ノ神石Ⅰ	八郎潟町浦大町字寒ノ神	遺物包含地	石鏃、石匙、石皿、フレーク多量
60	寒ノ神石Ⅱ	八郎潟町浦大町字寒ノ神	遺物包含地	縄文土器、石鏃、扁平打製石器、石鏃、鉄滓等
61	里ヶ久塔Ⅲ	八郎潟町浦大町字里ヶ久	宝篋印塔	塔、基礎、反花付壇上積式
62	後谷地真和5年碑	八郎潟町夜又袋字後谷地	板碑	
63	一向堂碑Ⅰ	八郎潟町夜又袋字一向堂	板碑	
	一向堂碑Ⅱ	八郎潟町夜又袋字一向堂	板碑	
	一向堂碑Ⅲ	八郎潟町夜又袋字一向堂	板碑	
	一向堂碑Ⅳ	八郎潟町夜又袋字一向堂	板碑	
64	河原崎碑Ⅰ	八郎潟町夜又袋字河原崎	板碑	
	河原崎文和2年碑	八郎潟町夜又袋字河原崎	板碑	
	河原崎文和4年碑	八郎潟町夜又袋字河原崎	板碑	
65	地藏畑畑和5年碑	八郎潟町夜又袋字一向堂	板碑	
	地藏畑畑和碑	八郎潟町夜又袋字一向堂	板碑	
	地藏畑碑Ⅰ	八郎潟町夜又袋字一向堂	板碑	
66	中島碑Ⅰ	八郎潟町小池字中島	板碑	
	中島碑Ⅱ	八郎潟町小池字中島	板碑	
	中島碑Ⅲ	八郎潟町小池字中島	板碑	
	中島碑Ⅳ	八郎潟町小池字中島	板碑	
	中島碑Ⅴ	八郎潟町小池字中島	板碑	
67	萱戸家群碑	八郎潟町小池字萱戸家	板碑	種字
68	蒲沼碑	八郎潟町字軒島	板碑	
69	蒲沼	八郎潟町字蒲沼	遺物包含地	土師器、須恵器、土製品、木製品、陶磁器等
70	押切城	八郎潟町字中島	平城	
71	上昼根延文碑	八郎潟町字上昼根	板碑	
72	前川原真和2年碑	八郎潟町川崎字前川原	板碑	
	前川原碑Ⅰ	八郎潟町川崎字前川原	板碑	
73	貝保碑	八郎潟町川崎字貝保	板碑	
74	鳥木沢	飯田川町飯塚字鳥木沢	遺物包含地	縄文土器(後・晩期)
75	古開Ⅰ	飯田川町和田妹川字古開	遺物包含地	縄文土器、弥生土器、石匙、フレーク
76	古開Ⅱ	飯田川町和田妹川字古開	集落跡	竪穴住居跡、縄文土器、土師器、須恵器等
77	古開	飯田川町飯塚字古開	遺物包含地	須恵器坏
78	観音寺	飯田川町飯塚字観音尻	寺院跡	礎石、板碑
79	小玉館	飯田川町飯塚字水神端	館跡	帯郭
80	築掛館	飯田川町飯塚字僧ヶ沢	館跡	帯郭、空堀、板碑(南北朝紀年)
81	鷺尾館	飯田川町和田妹川字坂の下	館跡	帯郭、空堀、縄文土器(後・晩期)、石鏃
82	鹿來館	飯田川町和田妹川字鹿來	館跡	帯郭、空堀、竪穴住居跡、土師器、陶磁器等
83	鬼王館	飯田川町和田妹川字大宮沢	館跡	帯郭、空堀、段築、縄文土器、陶磁器等
84	六ツ鹿沢	飯田川町和田妹川字六ツ鹿沢	館跡	帯曲輪、陶磁器
85	城の内	飯田川町下虻川字城の内	建物跡	碑
86	松葉沢	飯田川町下虻川字松葉沢	遺物包含地	縄文土器(中・晩期)
87	西野	昭和町豊川山田字家ノ上	集落跡	竪穴住居跡、鍛冶炉、土師器、須恵器、鉄滓
88	下台	昭和町豊川山田字家ノ上	遺物包含地	
89	八幡台	昭和町豊川山田字豊沢	寺院跡	五輪塔風空輪部
90	湯の沢Ⅰ	昭和町豊川山田市市の坪	遺物包含地	縄文土器片(前期)、須恵器片
91	湯の沢Ⅱ	昭和町豊川山田市市の坪	遺物包含地	土師器片
92	石川理紀之助遺跡	昭和町山田	史跡	尚庵、書庫、郷倉

第2章 遺跡の環境

- 秋田県教育委員会 『藩沼遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第96集 1982(昭和57)年
- 塩谷順耳編 『中世の秋田』 秋田魁新報社 1982(昭和57)年
- 五城目町教育委員会 『中山遺跡発掘調査報告書』 1983(昭和58)年
- 五城目町教育委員会 『中山遺跡発掘調査報告書』 1984(昭和59)年
- 井川町 『井川町史』 1986(昭和61)年
- 井川町教育委員会 『大野地遺跡発掘調査報告書』 1988年(昭和63)年
- 秋田県教育委員会 『秋田県遺跡地図(中央版)』 1990(平成2)年
- 五城目町教育委員会 『中山遺跡発掘調査報告書』 1990(平成2)年
- 秋田県教育委員会 『州崎遺跡』 秋田県文化財調査報告書第303集 2000(平成12)年
- 秋田県教育委員会 『北遺跡』 秋田県文化財調査報告書第315集 2001(平成13)年
- 秋田県教育委員会 『中谷地遺跡』 秋田県文化財調査報告書第316集 2001(平成13)年
- 秋田県教育委員会 『古間Ⅱ遺跡』 秋田県文化財調査報告書第317集 2001(平成13)年
- 秋田県教育委員会 『鹿末館跡』 秋田県文化財調査報告書第332集 2002(平成14)年

第3章 発掘調査の概要

第1節 遺跡の概観

調査は、標高12~17mの緩斜面と標高15m前後の平坦面を中心とした範囲を対象に行われた。このうち北側の平坦面1,500m(未買収地のため範囲確認調査ができなかった部分)についてはトレンチ調査の結果、削平された場所であることがわかり、遺構、遺物ともに確認されなかったため、一部を除きこれ以上の調査は行わないことにした。

調査範囲は北側部分と南側部分に大きく分けられるが、この中間部分は大きく土取りが行われているため、斜面が抉り取られたような状態になっている。周囲の遺構・遺物の検出状況から、遺跡の広がりはこの部分にも及んでいたと考えられる。

北側部分の地形は、丘陵地の尾根へ向かう急な斜面になっている。北側部分では古代の遺構・遺物を多く検出した。古代の主な遺構として竪穴住居跡、土坑、溝などがある。竪穴住居跡は保存状態が悪く、プランが不明瞭なため、柱穴の配列と住居付属施設的位置関係などを考えた結果、竪穴住居跡と認定したものである。

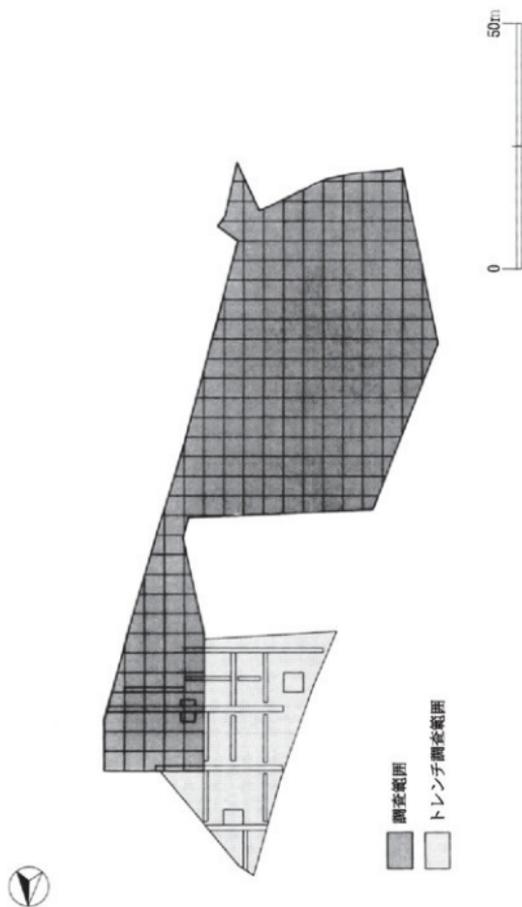
南側部分の地形は、東側調査区外の畑地から続く緩斜面で西側の調査区外では道路を挟み沖積低地になっている。道路から低地までは約3mの比高があり崖状を呈している。南側部分では弥生時代の遺構・遺物を多く検出した。弥生時代の主な遺構として竪穴住居跡、土坑、溝跡、土器埋設遺構などがある。遺物はL O56グリッド周辺から多く出土しているが、この近くの調査区外(境界から3mほど東側)には湧水地点がある。

第2節 調査の方法

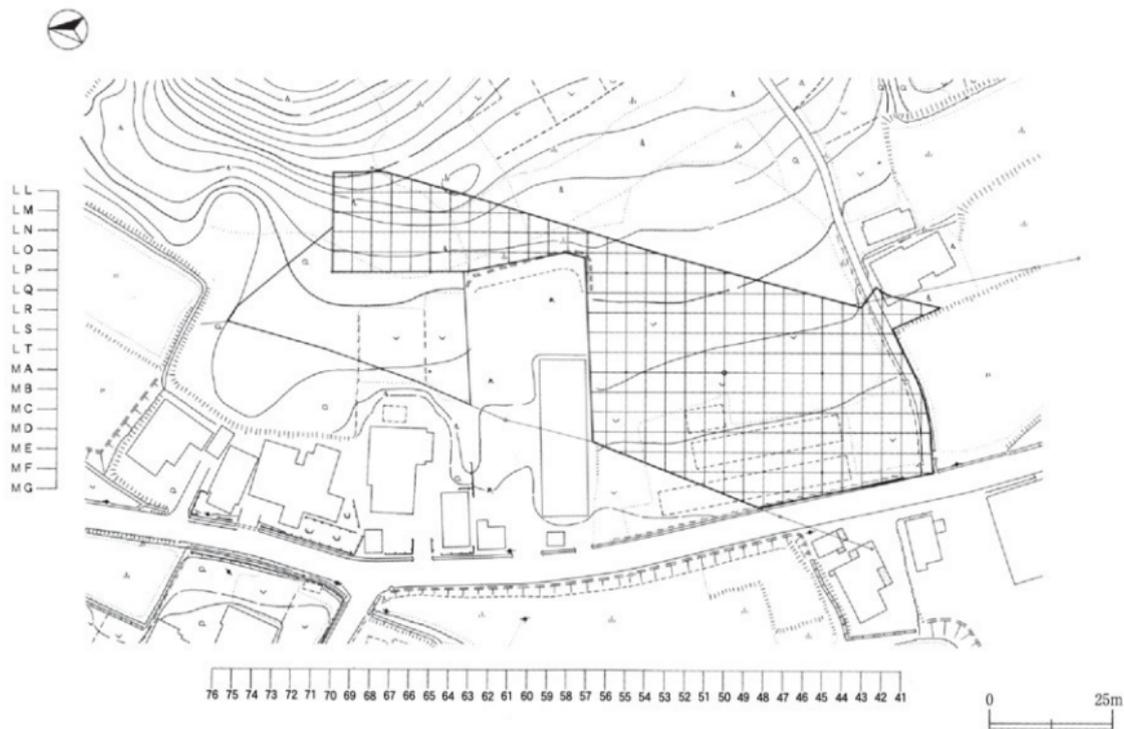
調査の方法は、日本海沿岸東北自動車道建設工事のセンター杭(S T A . N o . 77+00)を基点として真北方向をとり、4m×4mの方眼杭を打設して遺構・遺物の検出地点を把握するグリッド法を採用した。具体的には、基点にMA50の呼称を付し、西に行くに従いMB、MC、MD……というアルファベットを、北に行くに従い51、52、53……という二桁の算用数字を用い、これを組み合わせた記号で位置を示した。その際、4m方眼の南東隅に位置する杭を当該グリッドの名称とした。

検出した遺構は発見順に(柱穴様ビットは101番から)略記号および番号を付して区別した。

調査は表土(耕作土)の掘り下げ、包含層(一部残存)の掘り下げ、遺構精査という手順で進めた。表土の中には遺物が多く含まれているため手作業で包含層・遺構確認面までの掘り下げを行った。出土した遺物に遺跡名・出土位置・出土層位・出土年月日を記録し、必要に応じて写真撮影記録を行った。遺物番号を付したものは出土レベルも記録した。検出遺構・遺物は、35mm判モノクロネガフィルム・リヴァーサルフィルム・カラーネガフィルムで撮影記録した。



第7図 調査対象範囲図



第8図 グリッド配置図

第3節 調査の経過

今回の発掘調査は、平成10年6月8日～6月23日に行われた確認調査を経て、平成12年5月15日から9月14日まで行われた。以下は主な調査経過を集約したものである。

- 5月15日：調査初日。作業員に対する作業の説明、発掘調査機材の搬入、環境整備を実施。
- 5月16日：発掘機材の搬入。調査区北側のトレンチ調査を開始。
- 5月18日：ベルトコンベアの設置。調査区南側の調査を開始。
- 5月19日：調査区北側トレンチ調査で焼土遺構を検出(後のS106)。
- 5月20日：ベルトコンベアの配線作業が完了。ベルトコンベアの使用を開始。
- 5月24日：LM59グリッドから磨製石斧が出土。LO56グリッドから多数の遺物(弥生時代の土器)が出土。
- 5月25日：南側調査区で土坑を検出。北側調査区のトレンチ調査が終了。北側調査区の西側平坦面はこれ以上調査を行う必要がないと判断。遺構・遺物が検出された東側斜面については本調査を行うことに決定。
- 5月29日：南側調査区検出土坑(後のSK02)に含まれる土器(遠賀川系)の微細図作成を開始。大形の壺形土器の他に、蓋なども確認。
- 6月3日：鳥海町教育委員会、佐藤錠司主任来跡。
- 6月6日：午後、作業員健康診断。
- 6月7日：SK01の精査を開始。確認面で多数の遺物を確認。基本土層断面図の作成。
- 6月14日：溝跡SD09・10を検出。切り合いを確認。
- 6月15日：SK01に隣接するSK04が倒木痕と判明。井川町文化財保護協会会長、齋藤肇氏来跡。周辺の遺跡について助言を受ける。
- 6月19日：井川町文化財審議委員(10数名)が来跡。
- 6月28日：昨夜の雨で調査区が浸水。急遽、沈殿槽を設けできるだけきれいな水を排水路へ流すように対処。
- 6月29日：調査区内の電柱撤去工事が行われる。一時作業中止。
- 6月30日：遺跡遠景写真撮影(北側は五城目町森山山頂、南側は遺跡の南東約1kmの地点から)。山本町教育委員会嶋田仁・田村征孝係長来跡。
- 7月1日：山本町教育委員会嶋田仁係長、調査に参加。
- 7月7日：SK25、26を検出。切り合いを確認。
- 7月10日：調査区内の電柱撤去工事が行われ、作業が一時中止。確認調査時に検出された焼土周辺から複数の柱穴状プランを検出したため竪穴住居跡(S115)として精査を開始。
- 7月14日：溝跡SD28を検出。
- 7月17日：小武海松四郎氏(井川町新聞遺跡調査担当者)、井川町教育委員会伊藤氏来跡。小武海氏から遺物などについて助言を受ける。
- 7月18日：断続的な強い雨のため現場作業を中止。安全確認のため時折調査区を巡回。

- 7月19日：SK01遺物微細図作成・取り上げ。SK01からは複数個体の土器が出土。南側調査区溝跡群(SD19・20・21・22・23)の調査開始。
- 7月24日：南西調査区(旧取り付け道路部分)の表土除去、調査を開始。
- 7月25日：南西調査区で多数の柱穴様ビットを確認。
- 7月31日：猛暑(秋田市38℃)のため休憩時間等を延長。東京大学学生、根岸洋君調査参加。SD群の本格的な掘り下げを開始。
- 8月4日：SD23から遺物が多数出土(土器細片中心)。
- 8月10日：SD20・22の新旧関係が判明。
- 8月21日：地山の部分的な掘り下げを開始(旧石器時代の遺物の確認のため)。
- 8月22日：土器の集中地点を検出(SK31)。
- 8月28日：航空写真撮影打ち合わせを実施。
- 8月31日：航空写真撮影を実施。
- 9月1日：SK32～35を確認。
- 9月4日：SD36～38を確認。
- 9月6日：現場撤収工程が決定(予定より2週間調査が短縮)。
- 9月11日：SKP(後にSK)290・291から合口状の土器が出土。その他ミニチュア土器も出土。
- 9月13日：遺構精査、地形図作成等の調査記録(図面関係)作業が終了。
- 9月14日：調査終了写真撮影、遺跡の引渡し、発掘調査物資の輸送、リース機材の返却、トイレの汲み取りを行い全ての調査工程を終了。

第4章 調査の記録

第1節 基本層序

調査範囲内における基本土層を7層に分層した。良好な状態で確認できるのは調査区南側の一部だけである。

I層は20～40cmの層厚で調査区北側では表土、南側では耕作土になる。縄文時代、弥生時代、古代、近世の遺物を包含する。

II層は3層に細分した。II a層は調査区北側のやや急な斜面と調査区南側の一部のみ存在する層で古代の遺構確認面・遺物包含層である。層厚は20cm前後である。II b層は調査区南側に局部的に薄く存在する層で砂粒を含み水の影響を受けた層である。II c層は弥生時代の包含層で層厚は10cm前後である。

III層は弥生時代の遺物包含層で層厚は20cm前後である。

IV層は漸移層で遺構確認面であるが残存部分が少ないためほとんどの遺構はV層の地山面で確認された。

I 層 耕作土 10YR 3/2 黒褐色。地山ブロック(径5mm前後)を少量含む。

II a層 古代の遺物包含層 10YR 3/3 暗褐色～10YR 4/3 にぶい黄褐色。シルト質土。

II b層 10YR 3/2 黒褐色。やや赤褐色をおびる。シルト質土。砂混じる。

II c層 弥生時代の遺物包含層 10YR 2/1 黒色～10YR 2/2 黒褐色。シルト質土。

III 層 弥生時代の遺物包含層 10YR 4/3 にぶい黄褐色～10YR 3/3 暗褐色。シルト質土。

IV 層 漸移層 10YR 4/3 にぶい黄褐色～10YR 4/4 褐色。シルト質土。

V 層 地山 10YR 4/6 褐色。シルト質土。

第2節 検出遺構と遺物

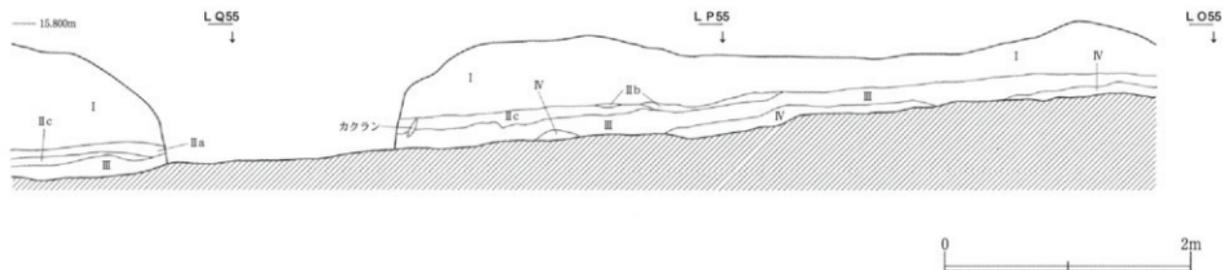
1. 検出遺構の概要

発掘調査の結果、検出した遺構は304に及んだ。内訳は竪穴住居跡3軒、土坑23基、土器埋設遺構2基、焼土遺構2基、溝跡13基、柱穴樫ビット261基である。これらの遺構は、縄文時代、弥生時代、平安時代、時期不明の4種類に分けられる。

遺物は弥生時代の土器・石器を中心に整理用の大コンテナで34箱出土した。

2. 縄文時代・弥生時代の遺構と遺物

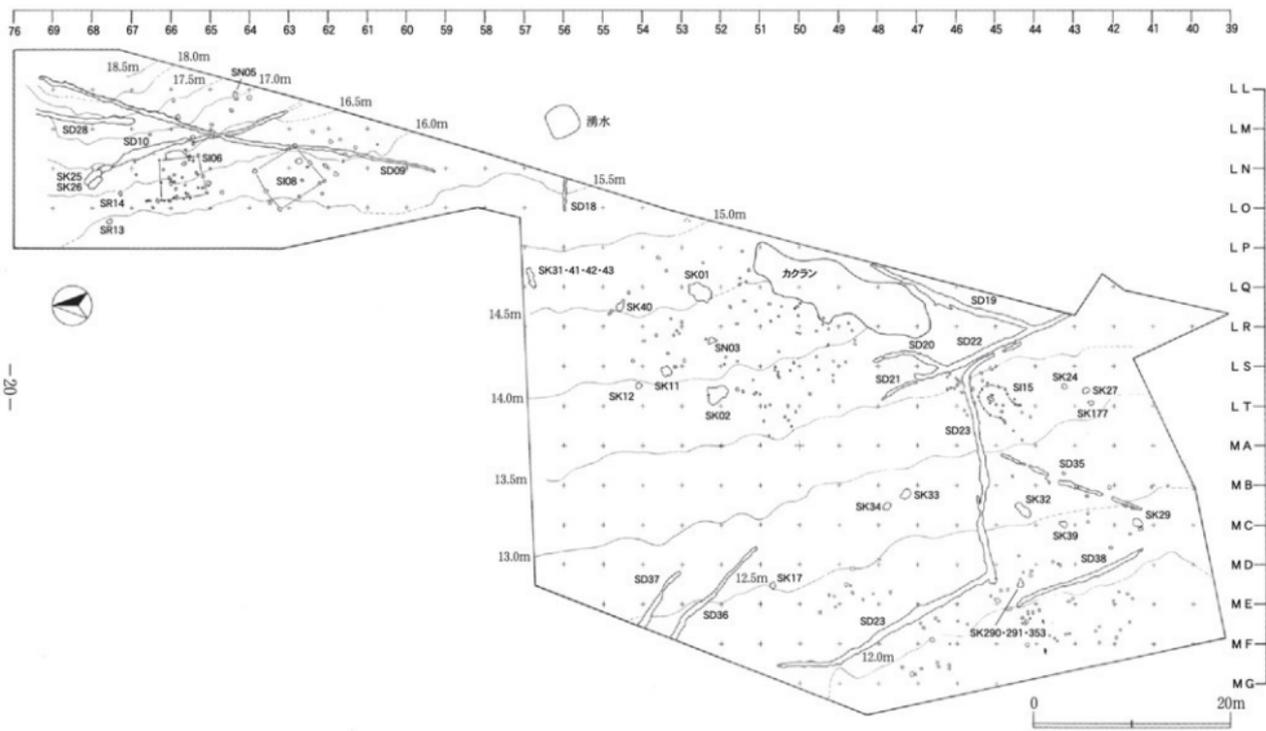
縄文時代・弥生時代の遺構は竪穴住居跡1軒、土坑10基、土器埋設遺構2基、焼土遺構1基、溝跡4条である。そのほとんどが弥生時代の遺構と考えられる。



- I 層 耕作土 10YR 3/2 黒褐色。地山ブロック(径5mm前後)を少量含む。
- II a層 古代の遺物包含層 10YR 3/3 暗褐色～10YR 4/3 にぶい黄褐色。シルト質土。
- II b層 10YR 3/2 黒褐色。やや赤褐色をおびる。シルト質土。砂混じる。
- II c層 弥生時代の遺物包含層 10YR 2/1 黒色～10YR 2/2 黒褐色。シルト質土。
- III 層 弥生時代の遺物包含層 10YR 4/3 にぶい黄褐色～10YR 3/3 暗褐色。シルト質土。
- IV 層 漸移層 10YR 4/3 にぶい黄褐色～10YR 4/4 褐色。シルト質土。
- V 層 地山 10YR 4/6 褐色。シルト質土。

※ 北側の基本土層については第46図S 106竪穴住居跡断面と第48図S N05焼土遺構断面を参照のこと。

第9図 55ライン基本土層図



第10図 遺構配置図

(1) 竪穴住居跡

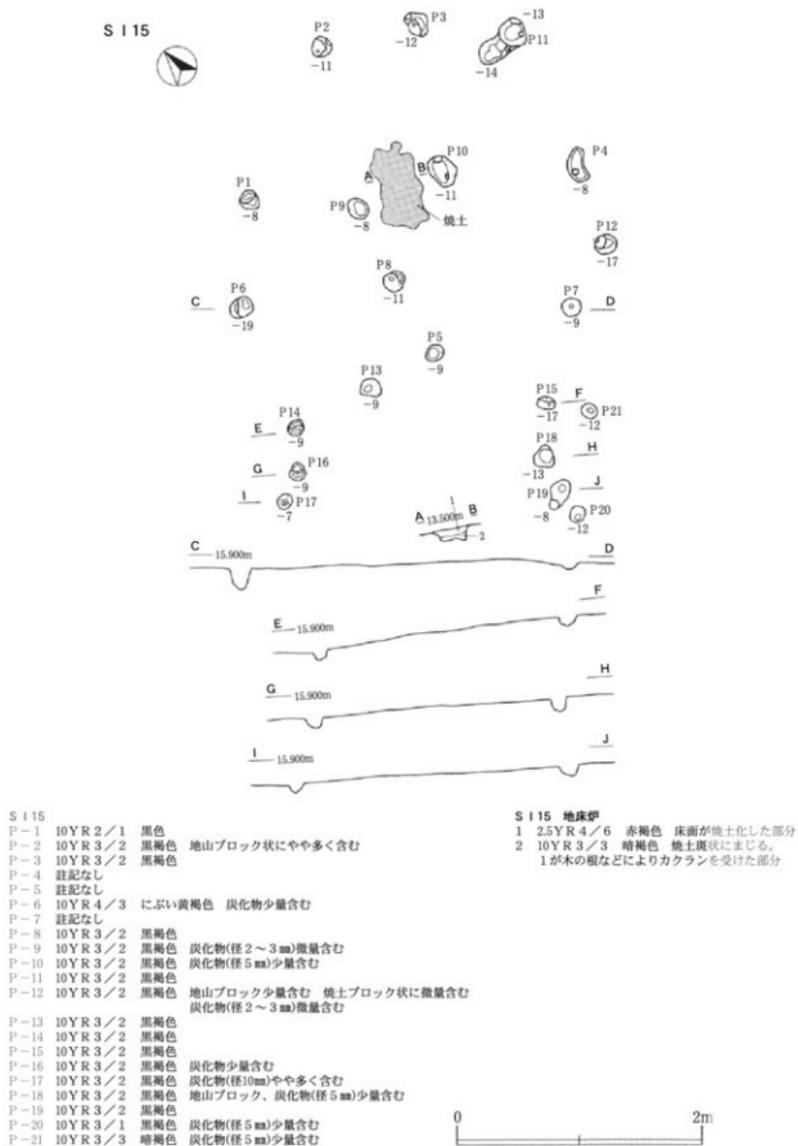
S I 15

- <位置>L S 44・45、L T 44・45にかけての範囲に位置する。
- <規模>径約2.7m(柱穴の配置プランよりの規模である。
- <検出状態>確認調査で検出済みの焼土遺構の周辺部を遺構確認面(地山面)まで掘り下げたところ、焼土を中心に直径約2.7mでめぐる8基の柱穴を検出した。そのため住居跡として精査を進めた。
- <堆積土の状態>遺構周辺は削平を受けており、I層(耕作土)の下はV層の地山面である。そのため掘り込み面、遺構内堆積土ともに確認できなかった。
- <壁の状態>壁は耕作の影響で消失している。
- <床面の状態>周囲の地山の状態から、地山面を掘りこんだ痕跡はみられず、地山面をそのまま床として使用したものと考えられる。床面に硬化部分は確認できなかった。
- <柱穴の状態>当遺構に伴う柱穴が21基検出された。このうち南西部に位置する3対の柱穴P 14-15(1.8m)、P 16-18(1.8m)、P 17-19(2.1m)は0.1~0.2mの間隔で配置され出入り口状の張り出しを構成している。
- <炉の状態>住居のほぼ中央部に北東-南西に0.7m、北西-南東に0.35mの楕円形状に焼土が形成され、地床炉として使用されたものと考えられる。
- <遺物>柱穴から弥生時代のものと考えられる土器の細片が出土した。
- <考察>柱穴から弥生時代の遺物が出土したほかは住居の年代を示す遺物を検出することはできなかった。柱穴の深度は浅く、簡易的な住居であったことも考えられる。ちなみに、柱穴内出土炭化物のC 14年代測定では、B P 2407±61(P 6)、B P 2526±60(P 16)という結果が得られている。

(2) 土坑

S K 01

- <位置>L P 52・L Q 52にかけての範囲に位置する。
- <規模>長軸(北東-南西)1.8m、短軸(北西-南東)1.5m、深さ0.15mの規模である。
- <検出状態>確認調査で検出された土坑である。確認面では黒褐色の楕円形プラン中に土器が散在している状態であった。
- <堆積土の状態>堆積土は黒褐色土の自然堆積層が主であり、埋め戻しの痕跡は見当たらない。
- <壁・底面の状態>壁は緩く立ち上がり、底面には凹凸がある。
- <遺物の出土状態>堆積土中から大量の土器が出土した。また、先に行なわれた確認調査でも当遺構上面から大量の土器が出土している。器種も豊富である。南西部は倒木痕により壊されている。
- <その他>遺構周辺から4つのピットが検出された。
- <遺物>第20図~第23図。埋土からは、甕、鉢、壺、高坏、蓋などの土器が出土している。1は小型の甕形土器である。外面の調整・施文は、刷毛目→縄文→沈線の順である。口縁部~頸部には4条の沈線がめぐる。内面には入念な磨きが施される。20は鉢形土器である。口縁部と胴部の境目がくびれ、口縁部は花卉状に外反している。口縁には6個の波頂部があり、波頂部から内面に長さ1cmの短沈線が垂下している。また、波頂部の1つには、波頂部の下位に2個の穿孔が施されている。全体の文様は縄文とその磨り消し部分、沈線の3要素で構成される。施文順は縄文(L R・縦・斜め)→磨き(磨り



第11図 S I 15竪穴住居跡

消し)→沈線である。沈線は、口縁部に沿って1条、その下位に2条の平行沈線が施されている。平行沈線は、この他にも口縁部と胴部の境目に1条、底部付近に2条施されている。これらの平行沈線の間には沈線による垂下文が施されている。口縁部内面には3条の沈線が施されている。31は小型の壺形土器である。最大径部分より下位には、RL縄文(縦)が施され、上位には、磨きによる無文地に平行沈線が施されている。平行沈線は3条1組で口縁部、頸部、胴部に施されている。頸部には2個1組の穿孔が対の位置に計4個施されている。外面の調整・施文は、刷毛目→縄文→磨き→沈線の順であるが、胴部上半は磨き込まれているため刷毛目を確認することができない。縄文は胴部の他、口縁部にも微かに確認できる。内面の調整は、刷毛目→磨きの順であるが、口縁部周辺の磨きが入念であるのに対し、これより下位では雑で刷毛目が多く残っている。32は大型の壺形土器である。口縁部にLR縄文(横)が施される他は磨き込まれている。口縁部と頸部には2条1組の沈線が施され、頸部の沈線には、これに沿って列点文が施される。外面の調整・施文は、刷毛目→磨き→縄文・沈線・列点の順である。内面は、刷毛目→磨きの順である。36は高坏形土器の胴部である。胴部上半には、3条1組の平行沈線が4ヶ所に施され、胴部下半にはLR縄文が施される。外面の調整・施文順は、縄文→磨き→沈線である。内面は、口縁部に3条の平行沈線が施されている。内面の調整・施文順は、刷毛目→磨き→沈線である。38、39、40は笠形を呈する蓋形土器である。38はつまみ部下位に2条、口縁部に6条(3条1組)の平行沈線が施されている。地文はLR縄文である。外面の調整・施文順は、刷毛目→縄文→磨き→沈線である。内面は、磨き込まれている。39はつまみ部下位に2条、口縁部に3条の平行沈線が施されている。地文はLR縄文である。外面の調整・施文順は、体部が刷毛目→縄文→沈線で、つまみ部が磨き→縄文→沈線である。内面は、刷毛目→磨きである。40はつまみ部はなく、器上面から口縁まで緩やかな曲線を呈する。口縁部に1条の沈線が施される。外面の調整・施文順は、刷毛目→沈線であるが、刷毛目は、雑な沈線のような装飾効果をもたらしている。内面には、3~4条の雑な沈線が施される。内面の調整・施文順は、刷毛目→磨き→沈線である。44は板状の蓋で上面の文様は沈線によって構成されている。中心部から端部に向かって3本1組の沈線が十字に、また、周縁に沿って2条の沈線が施されている。表面の調整・施文順は、刷毛目→沈線である。裏面には、沈線が見られず、刷毛目が多く残っている。

<考察>出土した遺物は廃棄されたものと考えられるが、当初から廃棄用土坑として構築されたものか、一次使用(用途不明)の後、廃棄用土坑に転用されたものなのかは不明である。

SK02

<位置>LS51・LS52にかけての範囲に位置する。

<規模>長軸(北西-南東)2.3m、短軸(北東-南西)1.5m、深さ0.1mの規模である。

<検出状態>表土除去後、IV~V層面で土器集中地点を中心にして広がる不定形の黒褐色プランを検出した。黒色プラン内では壺形土器が上から潰れたような状態で散らばっていた。

<堆積土の状態>炭化物まじりの黒褐色土が堆積する。

<壁・底面の状態>壁は緩く立ちあがり、底面には凹凸がある。遺構内には2つのピットがある。このうち南東のピットは遺構内堆積土を切って掘り込まれているため当遺構より新しい。

<遺物の出土状態>大型の壺形土器や蓋形土器など比較的多くの遺物が出土した。SK01に比べると遺物量は少ない。